

# 清流

## 「6から」に込められた思い

「6から」…何のことだろうと思われる方も多いかと思いますが、これは吉富先生が発行されている6年生の学級通信のネーミングです。このネーミングについては後で触れますが、今週号の「6から」には下のような記事がありました。

月曜から運動会の全体練習が始まりました。今週の全体練習の内容は、行進の練習や開会式、閉会式の練習が中心でした。入場行進の様子を見ていますと、6年生は堂々と行進することができている子どもたちが多いです。下学年の手本になっていると思います。

開会式、閉会式では、全体の前に出る6年生がいます。その子どもたちは、朝の時間や昼休みに個別に練習を行っています。子どもたちは、家に帰ってから自分なりに言葉を考えていたり、休み時間に友だちと練習したりして、日々進歩していると思います。運動会をいい機会として、これまで経験したことのないことにチャレンジすることが大切だと思いますので、本番まで練習を重ねていながら準備します。ご家庭でも励ましの声かけをお願いします。また、係で前に出る子どもたちだけではなく、昼休みに、行進の目印になるポイントを作った子どもや、パネルの絵をつくる子どももいます。それぞれ役割は違いますが、一人一人が輝ける運動会を子どもたちとつくりたいと思います。来週もよろしくお願いします。

吉富先生の熱い思いと、子どもたちのことをしっかりと認め、何よりも大切に思っている温かい心が伝わってくる素敵な記事です。このような吉富先生の思いを受け止めているのでしょうか、6年生はとても素晴らしい姿で運動会の練習に取り組んでくれています。行進する姿、式での姿勢、きびきびした動作、返事の声、どれを取っても、5年生以下の子どもたちの手本となっています。さらに、運動会の練習だけではなく、日頃の生活の中でも6年生になってからの29名の子どもたちは、ひと味違っているように感じます。先日は、「帰りの会の時、ワークスペースを掃除していた私の姿を教室から見ていた6年生が、すぐに全員手伝いに出てきてくれました。」と、井手先生が嬉しそうに話してくれました。授業を見に行っても、6年生が授業に集中する姿からは、やらされている学習ではなく自らの意思で頑張っている学習という雰囲気伝わってきます。

さて、6年生の学級通信のネーミング「6から」に話題を戻しますと、これは甲佐小の今年のスローガン「変えていこう やればできる」と関連しているのだそうです。このスローガンが私から示され、6年生担任をすることになった吉富先生は、甲佐小を「変えていくのは6年生から、変えていけるのも6年生から」という思いを強く持って、このネーミングを決めたのだそうです。「6年生から発信することで、甲佐小をよりよく変えていきたい」という強い思いが込められているのです。そしてまた、それができる子どもたちだとも思ったのだそうです。実はこの思い、私が持っていた思いと重なるものでした。私も同じようなことを考えていたのです。ですから、このネーミングを聞いたとき、私は本当に嬉しく思いました。

そして、6年生の子どもたちは見事に私たちの期待に応え、日々頑張ってくれています。もうすぐ本番の運動会、吉富先生の文章にもあるように、運動会をいい機会として、これまで経験したことのないことにチャレンジし、一人一人が輝き、甲佐小をよりよく変えていきっかけにしてくれれば、と心から願っています。

